

よくある質問と返答

・私の〇〇の症状良くなる？

目的: 良くなる定義を患者さんとすり合わせる

施『〇〇さんにとって、よくなるって言うとはどんな状態を言いますか？』

患『山登りができるようになりたいです』

施『それであれば時間がかかるかもしれませんが、大丈夫ですよ。無理をせずに段階的に山登りができるようにしていきましょう』

・どれぐらいの回数で良くなる？

目的: 回数が気になる理由と真意を聞く

この質問をする真意

→単純にどれぐらいで治すかを知りたい

→詰めてきた方が早くなるのであれば詰めてきたい

→大体の予算の目安を知りたい

など

検査前

『今検査をした段階なので、今から治療を行なっていき、その後もう一度お話をさせて頂いていいですか？回数などで何か不安感がありますか？』

検査後

『今治療をさせて頂きましたが、最初に〇〇の状態になるまでには〇〇回程度必要ですね。回数に対して何か不安とかはあるのですか？』

・〇〇ができるようになる？

目的: 患者さんが理想とする状態を主語に必ず持つてくる

『先ほど趣味で山登りって言われていましたよね。きっちりと治療すればまたできるようになります。ただし痛みがなくなったからと言っていきなりすると絶対に再発するのでそこだけ気をつけましょう。私の方から症状が良くなればこれぐらいから始めていきましょう、という提案をさせていただきますがよろしいですか？』

・どれぐらいの頻度で来ることがいい？

目的: どれぐらいの回数で良くなる？と同じ

『理想的な話で言うと、次とその次は1週間ごとに来ていただきたいです。そこからは10日から2週間状態が良くなっていたら3週間ほどあけて行きます。最後のほうは3週間から月に一回程度で治療は大丈夫になってきます。』

この様な頻度が理想的ですが、来院する事は可能ですか？

・毎日来たほうが早く治る？

目的:どれぐらいの回数で良くなる？と同じ

→

- ・短期間で来た方が早くなるのであれば連続できたい
- ・以前のところでは頻度高く沢山来いと言われていた

上記の答えによって変える

『毎日くる必要はないですよ。週に1回程度がいい理想的ですが、最終的には間隔を空けていき体が元に戻らない様にしていくのが理想的ですね』

・急に痛みが出てきたのだけどなんで？

(慢性疾患なのに急性疾患と勘違いしてしまう状態)

**目的:急性の症状っぽいけど実は慢性。という事を認識
してもらう**

自分自身の考えをいくつかのパターンで用意をする

パターン1

『人間の体ってコップのように疲労感等を貯めることができます。例えば体がだるいなとかしんどいなとか、なんとなくしびれてるのって言う状態は、コップの中の水がちよろちよろと漏れ出ている感じです。イメージ的には体がそろそろ疲労感の限界を超えてきたよ。と言う風な形です。で何かの衝撃で中に溜まったお水が一気に倒れるようなイメージです。なのでイメージ的に急に出てきたような感じですが、実はそれまでに少しずつ体が悪くなっていて、今回のように一気に症状が出てきた感じです。なので、逆に言うと直す時と言うのはそれなりに時間がかかってしまうわけです』

パターン2

『お金がイメージ的にわかりやすいと思うのですが、使うのってすぐにお金なくなるけどを貯めるのって大変じゃないですか？それとイメージが同じです。悪くなるときは一瞬だけでも良くなろうと思ったら時間がかかってしまうんですよ。今回急に痛みが出ているのですが、そこまでに体が徐々に悪くなっていたのでしょね。でも基本的には良くなるものなので安心してください。』

・なんでもみ返しが来るの？

目的:後だしじゃんけんにならない様にする

パターン1

『もともと体がとても悪かったです。それが治療をすることによって体が動き出します。動かない状態が当たり前だったけれども動くことで筋肉痛みたいな感じになります。痛み、だるさ、しんどい、眠たいなんかも多いですね。とてもいい反応ですが、体に出てきてしまいます』

パターン2

『筋肉痛になったことありますか？普段動かしていない筋肉を使うと出てきます。それと同じで、体も普段動いていない、固まっているところがあると体にとってはいい事なのですが、びっくりして筋肉痛と同じ状態になってしまいます。』

・楽になったけど、今日は以前より痛みが強くなる事があるけどなんで？

目的:患者さんはとても不安に感じます。患者さんから質問がなくてもある程度お話をする方が理想的です。

『これは不思議なもので、もともとを常に痛かったですよね？それが楽になるとそこが基準値というか、当たり前の状態になります。舌が肥えるみたいな感じです。痛みが前ほど強くなかったとしても、いちど楽になっているので強く感じるようになっていきます。体は良くなっているのですが、感覚が変わってきているので波が出ています。でもこれすごくいいことなんです。だから大丈夫ですのでご安心下さい。』

・日によってすごく差があるけどこれは治っているの？

目的:患者さんの不安をなくすマイナスだけで絶対に終わらない

施『そうですね。日によってかなり差がでできます。例えば体調もそうですし、寝不足、気温、天候でもかなり変わってきています。逆に言うと痛みがましな時って出てきていませんか？』

患『そうなんです。ましな日と痛い日の差が出ています。』

施『そうですね。それは・・・』

上記と同じ説明でいいです。

痛いんですよね終わるのではなく、必ずプラスで持っていくことを意識して下さい。

・私遠いのでそんなに沢山通うことができない

目的:本当に時間がないのか。ただ単に言い訳がしたいのかを見極める

施『〇〇さんが言うようにたくさん言うのはどれぐらいの回数のことを言うのですか？』

真意を聞く。

患『1週間に2回とか来いと言われてれば無理です』

施『なるほど。そしたら最初に1週間に1回。その後は2週間に1回のペースだと大丈夫ですか？』

と言うイメージで、患者さんの基準を知ります。

たまにあるパターン

患『月に1回くらいしか来れない』

施『とても仕事忙しいと言われていましたもんね。正直、今の症状を改善させるために月に1回は難しいですね。次とその次だけでいいので**30分だけでも時間作れませんか？**体の歪みとかをまずはとって、そこからは月に1回で行けるのでお身体の為に時間作れませんか？』

できるだけハードルを下げるのが大切。

妥協するのか、それは無理と判断かは施術者の判断による

・お金がなくて沢山通う事ができないんです。

目的:お金がないのではなく、お金を払う価値があるかどうか分からない、妥協案を知る

前提:お金が本当にないのであれば、そもそも初回もこないです

患『私お金がないのでそこまで沢山通うことできないです』

施『そうなんです。〇〇さんの中でご予算とかがってありますか？』

患『そうですね。3、4万円くらいです。』

施『なるほど。逆に言うと3、4回は来ることができそうって事ですか？』

患『それくらいだったらなんとか』

施『そしたら、3、4回の中でできるだけ治療をしましょうか。できれば変に間を開けるより詰めて体をしっかり変えていきたいと思いますが来る事ができますか？』

予算、頻度などを合わせて提案をしていきます。

実際は続けているうちに価値観がお金を上回ることもあります。

そうなると継続的にきたりメンテナンスにも移行しやすいです。

しかし、風邪などキャンセルになってしまうと継続が途絶えやすい傾向にあります。

お金がないのは完全に嘘

正しくは

あなたの治療にお金を払う価値があるかどうか分からない。

あなたの治療院の金額はいくらですか？

仮に1万円とします。

1万円があればどんない体験や者が買えるでしょうか？

TDL 9400 円

USJ 9800 円

リッツカールトン 7000 円前後

この金額よりも治療院の方が高いのにわざわざ時間を使って来院されている。

にもかかわらずお金がないということはまずあり得ない。

ということを理解しましょう。

・距離的にかなり遠い場合

目的:こちらの思い込みをなくす

距離が遠いけれども、患者さんにとっては全く苦にならないと言うこともあります。また、職場の通勤の途中などであれば問題がないので、その辺も考慮しましょう。

施『距離や時間を関係なく治すということだけに焦点を絞って今からお話をさせていただきます。お体的に先程言ったみたいに〇〇のように治そうと思うと、最初は1週間に1回を大体2回程度続けて下さい。

その後は2週間に1回から3週間に1回。体がどんどんよくなれば4週間に1回程度で治療が進めていけるようになります。

距離が遠いですが、お体を治そうと思うと継続的に詰めてきて欲しいのですがそれは可能でしょうか？

私としては〇〇さんの体がとても心配なので、このまま放置しておきましょうとは、言えないです。』

・私たまたま実家でこっちにきていて、〇日には帰る予定なんです

目的:短期集中での治療をする

施『なるほど。という事はこちらにいらっしゃる期間はあと〇の日と言う事ですね。もしも続けてくると言う場合、この期間で何日間来ることが出来ますか？』

患『○日くらいです』

施『分りました。そしたら、短い期間でぎゅっと詰める形になりますが、この回数で集中的に治療しましょうか。そうしたら痛みかなり軽減します。来ることができますか？』

海外の方や産後で少しの期間しかいない方は、このようなパターンで集中的に治療をします。

1週間に3回などのような方法で2週間で終わる方も中にはいらっしゃいます。

音声の事例の様に、3週間弱で4回などもあります。

・今後運動をしたい。どうやって体の戻せばいいの？

目的:段階的に度合いを上げていく

山登りパターン

施『お体随分とよくなってきたので、山登り初めてみましょうか』

患『大丈夫ですかね？』

施『段階的に行っていきたいと思います。いきなり山登りは痛みが出る可能性があるので、まず平坦な道を1週間に2回程度。30分ぐらい歩いて頂きたいのですが、時間は取れそうですか？』

患『大丈夫です。』

施『そしたら今日から2週間後にまた治療をしたいのですが、その間に目安として合計4回歩くようにしましょう。途中で痛みが強くなったらすぐに中止をしてください。まだたくさん歩けるなと思っても30本以上は歩いてほしくないで、30分までで止めるようにしてください。』

歩く、自転車に乗るなどの場合は、このようなパターンで段階を踏んで行きます。

ゴルフパターン

施『お体随分とよくなってきたので、ゴルフ始めてみましょうか。いきなりラウンドに出るのは心配なので、練習から行っていただきたいです。できればドライバーではなくアプローチの練習から80球程度にまで抑えていただきたいのですが可能でしょうか？』

施『大丈夫です』

施『まずは次回くるまでに2回程度行って下さい』

次の治療の際

施『前回からゴルフしましたか？』

患『はい。やりました』

施『痛みどうでしたか？』

患『痛みなどは特に強く出ることにはなかったです』

施『よかったです。そしたら次は同じ球数でドライバーを2割程度やりましょうか』

このような形で徐々に回数や頻度を上げていきます。

患者さんからしても成功体験ができるので非常にやりやすい形になります。